

新発田税務署管内税務団体協議会長賞

次世代に向けての恩返し

新発田市立 猿橋中学校 三年 田 澤 花 恵 さん

夏休みのある日、私は塾で勉強をしていた。その時に三回も救急車のサイレン音が聞こえた。救急車で運ばれている人を心配すると同時に、救急車はどのようにして成り立っているのか気になった。

塾から帰宅し、救急車に関連することを調べた。調べた結果、日本のように救急車を無料で利用できる国はとても珍しいということが分かった。日本では、救急車の費用は私たちの税金で賄われている。しかし、日本以外の多くの国は、有料で救急車を利用している。救急車が一回出動するのに必要な費用は、およそ四万五千円である。そこで私は、もし日本が外国のように、救急車の利用が有料になったらどうなるのかと考えた。有料にするメリットは、軽症による安易な通報やいたずらが減ること。デメリットは、お金が無くて、本当に必要とする時に救急車を呼べない可能性があること。あらゆる視点で考えてみると、私は救急車を無料で利用することに賛成だ。

そのためには、税金が必要だ。今の日本では、税金があることがあたり前になっている。私たち中学生が身近に感じる税金は消費税である。令和元年に消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられてから感じることもある。それは、これから消費税が上がるのかということだ。消費税増税をすれば、国の財源が安定すると思う。しかし、増税を反対する人もいる。次に述べることを背景として考えるとどうだろう。それは、新型コロナウイルスによる打撃である。国は、コロナワクチンや検査や治療を無料とした。それに使われているのは税金である。コロナ禍が続き、日本は赤字となった。そこで、もし税金がない又は税金が少なかったらどうなるか想像すると、助かる命も助からなかったり、新型コロナウイルスが更に流行していたかもしれないことが想像できる。

このように、増税は国民一人一人の負担が大きくなるかもしれないが、生活を豊かにしていくための一つの手段であると考えられる。

最後に、私たち学生が決して忘れてはいけないことがある。それは、学べる環境が整っていることだ。中学生一人あたりの年間教育費は、およそ百十二万円である。このお金は多くの人々が納めた税金により賄われている。教科書の裏を見てみると必ず「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書かれている。私がこうして今、税金について学べていることも税金が関係している。税金があつてこそ、将来に向かって、希望を持って頑張れる。たくさんの人に支えられながら、学べていることに感謝したい。

私は将来果たしたいと強く思うことがある。それは、恵まれた環境で学べることへの恩返しだ。次世代の学生のために、学ぶ環境を整えるには、税金を納めることが第一歩だ。